

横浜市立大学 大学院

国際マネジメント研究科

研究科案内

2027

ビジネスの
最先端を
リードする人材へ

公立大学法人横浜市立大
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

YCU
横浜市立大学

ビジネスの最先端をリードする人材へ

近年のグローバル化による社会・経済活動の変化により、大学院は、新たな学問領域の創設や社会制度の変革の一翼を担う必要があります。

国際マネジメント研究科では、急速なグローバル化により、国際市場環境の直接的な影響を受けるようになった企業の環境に注目し、国際的な経済環境の変化を素早く合理的に分析し、的確な戦略を実行でき、企業の海外進出、特にアジアへの進出に重点を置き、本格的な海外展開を検討する企業およびこれらの企業を支援する組織に対して、国際的なマネジメントの知識、戦略およびセンスを備えた人材を育成します。

横浜市立大学沿革

明治	4年	仮病院設立	7年	文理学部を改組、国際文化学部・理学部設置 横浜市立大学看護短期大学部設置	
	5年	横浜中病院開院。中病院を移転、横浜共立病院開院	8年	大学院国際文化研究科(博士後期課程)設置	
	7年	十全医院に改称	9年	大学院経済学研究科(博士後期課程)設置 医学部附属高等看護学校廃止	
	15年	横浜商法学校設立	10年	大学院医学研究科(医科学専攻／修士課程)設置	
	21年	横浜商業学校に改称	12年	医学部附属浦舟病院を医学部附属市民総合医療センターに改称	
	24年	横浜市十全医院に改称	13年	大学院総合理学研究科(連携大学院／生体超分子システム科学 専攻博士後期課程)設置 鶴見キャンパス設置	
大正	6年	横浜市立横浜商業学校(Y校)に改称	15年	大学院医学研究科(博士課程)再編	
昭和	3年	横浜市横浜商業専門学校(Y専)設立	17年	公立大学法人横浜市立大学発足 商学部・国際文化学部・理学部の3学部を統合、国際総合科学部設置 看護短期大学部募集停止。医学部に統合し医学部看護学科を設置 経営学研究科、経済学研究科、理学研究科、国際文化研究科を統合、 大学院国際総合科学研究科設置 教養部、経済研究所廃止	
	8年	横浜経済研究所設置		公立大学法人横浜市立大学附属病院、公立大学法人横浜市立 大学附属市民総合医療センターとなる	
	19年	横浜市立経済専門学校に改称 横浜市立医学専門学校設置 横浜市立医学専門学校附属十全医院に改称	20年	看護短期大学部廃止	
	22年	旧制大学に昇格、横浜医科大学となる。	21年	大学院国際総合科学研究科再編、都市社会文化研究科、生命 ナノシステム科学研究科、国際マネジメント研究科を設置	
	24年	新制大学として横浜市立大学設置(商学部) 横浜市立大学経済研究所に改称 横浜医科大学病院に改称	22年	大学院医学研究科看護学専攻(修士課程)設置	
	27年	文理学部設置 横浜市立大学と統合、医学部設置	25年	大学院生命医科学研究科設置	
	29年	横浜市立大学医学部病院に改称	30年	データサイエンス学部、大学院医学研究科看護学専攻(博士 後期課程)設置	
	36年	大学院医学研究科(博士課程)設置	31年	国際総合科学部を再編し、国際教養学部、国際商学部、理学 部を設置	
	38年	教養部設置	令和	2年	データサイエンス研究科設置
	41年	市立高等看護学校／市立准看護学校開校		5年	データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻(博士 後期課程)設置
	45年	大学院経営学研究科(修士課程)、大学院経済学研究科 (修士課程)設置			
	46年	市立高等看護学校／市立准看護学校を再編、 医学部附属高等看護学校に改称			
	59年	財団法人木原生物学研究所より移管され、 木原生物学研究所設置			
平成	元年	大学院総合理学研究科(修士課程)設置			
	3年	大学院経営学研究科(博士後期課程)、大学院総合理学研究科 (博士後期課程)設置 医学部附属病院、医学部附属浦舟病院開院			
	5年	大学院国際文化研究科(修士課程)設置			



研究科長からのメッセージ

研究科長 高橋 隆幸

2026年4月現在、日本の経済活動はコロナ禍以前の水準を概ね回復し、国内外の人の往来やビジネス活動も活発さを取り戻しています。一方で、物価上昇の継続、ロシアや中東情勢をはじめとする国際情勢の不安定化、さらにはAIやデジタル技術の急速な進展など、社会経済を取り巻く環境は大きく変化し続けています。こうした先行きが不透明な時代において、社会科学を教育・研究する国際マネジメント研究科は、常に社会の現実にも目を向け、その変化を的確に捉える姿勢を大切にしています。

国際マネジメント研究科は、国際ルールに精通し、市場環境や制度の変化に柔軟に対応できるスキルを備えた人材、グローバル化の進展の中で企業全体のクオリティを高めることのできる人材、そして海外地域の産業集積の形成や発展を担うことのできる人材を育成することを目的として、2009年度に設置されました。

また、本研究科では社会のニーズに応える教育プログラムの充実を進めてきました。2021年度には、ソーシャル・

イノベーション社会人MBAプログラム(SIMBA)を開設し、横浜市をはじめとする地域社会に顕在化するさまざまな社会課題に対し、実践的な解決能力を身につけ、国際社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

さらに、2024年度からは、欧米や国内主要大学で広く採用されているコースワーク型の経済学教育を展開するYCU EconMastersプログラムを開始しました。本プログラムでは、経済学の理論的基盤に加え、高度なデータ分析手法を活用し、地域社会のウェルビーイングの向上に貢献できる人材の育成を目指しています。

このように、本研究科は社会の要請に応えながら、ビジネスと社会の最先端の課題に対応できる人材を輩出する教育・研究機関であり続けたいと考えています。明確な研究課題を持ち、その解決に向けて旺盛な研究意欲を有する皆さんが本研究科で研鑽を積み、ビジネスと社会の未来を切り拓く人材として活躍されることを期待しています。

教育・研究の特色

従来のマネジメント教育に加え、 ソーシャル・イノベーション修士プログラム(SIMBA)を展開

SIMBAプログラムでは、社会課題解決をめざし、社会人と学生を対象とした、経営学・経済学の知識やスキルを習得するためのプログラムです。ヘルス領域、社会福祉領域、その他の公共サービス領域など社会的な諸課題に対して、データに基づく経営管理手法のスキルを活かし、地域社会で活躍する、幹部あるいは幹部候補のリーダーとして活躍する人材を育成することを目的としています。

経済学分野にYCU EconMastersプログラムを新設

国際マネジメント研究科の経済学分野(修士・博士課程)では、学部からの一貫教育によって、好調な就職(シンクタンク研究職、国立大学研究職など)や学会賞受賞などの成果がでています。そこで2024年4月に、経済理論とデータ分析スキルの双方を備える人材＝デジタル人材を育成する新しいプログラム「YCU EconMastersプログラム」を経済学分野に新設しました。

インターンシップ、フィールドワークの単位認定

実務を重視する立場から、海外展開を行っている企業や官公庁へのインターンシップや海外の市場調査または制度調査等のフィールドワークについても単位として認定しています。

国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻

【入学定員と学位】

	入学定員	学位
博士前期課程	20名	修士（経営学または経済学）
博士後期課程	3名	博士（経営学または経済学）

【カリキュラム構成と修了要件】

博士前期課程	以下の科目群から30単位以上の取得、および修士論文の審査を経て修了します。	
	研究指導(8単位以上)	修士論文作成に向けた研究指導を行う科目
	基礎科目(6単位以上)	マネジメント教育の前提となる基礎を固める科目
	応用科目(16単位以上)	研究の深化およびキャリアデザインに関連した科目
博士後期課程	以下の科目群から20単位以上の取得、および博士論文の審査を経て修了します。	
	特殊研究指導(12単位以上)	博士論文作成に向けた研究指導を行う科目
	専門応用科目(8単位以上)	各分野の専門性を深めるための講義科目

履修モデル(博士前期課程)

以下に典型的な履修モデルを示しておきます。(1)はYCU EconMastersプログラムを修了する場合、(2)はソーシャル・イノベーション研究プログラムを修了する場合、(3)は両プログラムを履修せずに修了する場合のモデルです。これらの例を参考にして各自の研究目的にあわせて、研究指導員と充分相談の上、履修する科目を決めてください。

(1) YCU EconMasters プログラムを修了する場合

履修例1
経済理論とデータサイエンス力の双方を備える人材=デジタル人材の育成

学年	科目区分	科目名
1年次	基礎科目	ミクロ経済学研究
		マクロ経済学研究
		数量分析研究
	応用科目	ゲーム理論研究
		国際貿易論研究
		経済政策研究
		公共政策研究
		大学院特殊講義p,q(経済学原理)
		大学院特殊講義v,w(調査方法論)
		研究指導I・II
2年次	応用科目	金融論研究
		国際金融論研究
		大学院特殊講義j,k(Economic Analysis I)
	大学院特殊講義l,m(Economic Analysis II)	
研究指導III・IV		

【修了後の進路】
大学・国研究機関の研究職、シンクタンクの研究員

【研究テーマの例】
消費パネルデータを用いた電子商取引
職場の特性が介護職員の満足度に与える影響について
中国における排出量取引政策が企業価値に与える影響

(2) ソーシャル・イノベーション研究プログラムを修了する場合

履修例2 社会人履修モデル		
学年	科目区分	科目名
1年次	基礎科目	ビジネス・マネジメント
		マーケティング
		数量分析研究
	応用科目	ソーシャル・イノベーション
		公共マネジメント
		大学院特殊講義f,g(医療イノベーション経営)
		大学院特殊講義n,o(医療経営分析)
		ヘルス情報マネジメント
		サービス・マネジメント
		大学院特殊講義h,i(社会科学方法論)
ヘルスケア・ポリシーまたはヘルスケア・エコノミクス		
研究指導I・II		
2年次	研究指導III・IV	

【修了後の進路】
病院・介護施設経営、政策立案者、コンサルタント、非営利組織

【研究テーマの例】
サービス利用者数予測を踏まえた病院リソースの最適配置

履修例3 院生履修モデル		
学年	科目区分	科目名
1年次	基礎科目	ビジネス・マネジメント
		数量分析研究
		マーケティング
	応用科目	ソーシャル・イノベーション
		公共マネジメント
		大学院特殊講義f,g(医療イノベーション経営)
		大学院特殊講義n,o(医療経営分析)
		ヘルス情報マネジメント
		公会計研究
		グローバル・サービス・マネジメント
グローバル・マネジメント		
グローバル・ヒューマンリソース・ディベロップメント		
グローバル・オーガニゼーションズ		
戦略管理会計研究		
大学院特殊講義h,i(社会科学方法論)		
研究指導I・II		
2年次	研究指導III・IV	

【修了後の進路】
医療・福祉、国際非営利組織、地方・政府機関

【研究テーマの例】
わが国におけるメディカル・ツーリズムの確立における課題と「おもてなし医療」の潜在的可能性



国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻

履修モデル(博士前期課程)

(3) 両プログラムを履修せずに修了する場合

履修例4

在外子会社(支店)の販売管理、市場調査、社内の情報技術や財務に精通し、在外子会社(支店)の業務を統括して、グローバル・ビジネスを展開できる人材の育成

学年	科目区分	科目名
1 年次	基礎科目	ビジネス・マネジメント
		マーケティング
		数量分析研究
	応用科目	グローバル・マネジメント
		グローバル・ストラテジー
		ファイナンシャル・マネジメント
		ヘルス情報マネジメント
研究指導Ⅰ・Ⅱ		グローバル・オーガニゼーションズ
2 年次	応用科目	財務会計理論研究
		グローバル・ヒューマン・リソース・ディベロップメント
		大学院特殊講義
	研究指導Ⅲ・Ⅳ	

【修了後の進路】

在外子会社(支店)統括マネージャー、本社
在外子会社(支店)管理部門スタッフ、CIO

【研究テーマの例】

アジアにおける生産拠点の確立から販売拠点確立へむけた課題

履修例5

ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎に、統計データに基づいた市場分析が行えるアナリスト、費用対効果に基づいた事業運営が行える行政官を育成

学年	科目区分	科目名
1 年次	基礎科目	ミクロ経済学研究
		マクロ経済学研究
		数量分析研究
	応用科目	ゲーム理論研究
		財政学研究
		金融論研究
		公共政策研究
大学院特殊講義		大学院特殊講義
研究指導Ⅰ・Ⅱ		
2 年次	応用科目	経済政策研究
		国際貿易論研究
		ヘルスケア・エコノミクス
研究指導Ⅲ・Ⅳ		

【修了後の進路】

大学院博士後期への進学、シンクタンクの
研究員、行政

【研究テーマの例】

非伝統的な金融政策と銀行の収益

修了後の主な進路 2023~2025年度博士前期・後期課程修了者

【就職】

富士通株式会社	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	アクセンチュア株式会社
日本タタ・コンサルタンシー・サービズ株式会社	株式会社インテック	KPMG税理士法人
日本アイ・ピー・エムデジタルサービス株式会社	株式会社QUICK	
内閣府経済社会総合研究所	レーザーテック株式会社	
三井情報株式会社	アマゾンジャパン合同会社	

修士論文テーマ例 2025年度修了者

- 日本におけるバイオスタートアップの空間分布と事業成果の関連性
- ネットコミュニティにおける価値共創が参加者のコミュニティへのロイヤルティに与える影響:顧客コミットメントの媒介的役割
- 業務改善命令はどのような影響を銀行に与えたのか
-Sun- Abraham型推定に基づくイベントスタディ-
- 抗がん剤自動調製ロボット導入が保険財政ならびに病院の収入・支出に及ぼす影響
- 国別報告書が多国籍企業の所得移転に与える影響
- 企業の現預金保有と外国人株主との関係
-グレンジャー因果性検証に基づいた分析-
- 臨床研究支援組織職におけるワーク・エンゲイジメントに関する質的研究
- 退職金課税の制度改正が役員給与構成に及ぼす影響
- サービス・ロボットが導入されている宿泊施設の従業員のジョブ・クラフティングを促進するためにはどうすればよいか?
- テレワークにおけるサイバーローフィング行動の影響要因に関する実証研究
- 現職必置条件を考慮した教員の配属マッチングの設計
- Truncation-Proof Voting Rules with Ranking and Approval Inputs

国際マネジメント研究科

教員紹介

伊藤 智明 准教授

ITO Chiaki

【担当科目】

(博士前期課程)ビジネス・マネジメント



■ 連絡先

E-mail: ito.chi.xi@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 309

■ 経歴・研究活動等

立教大学社会学部卒業。テレビドラマの制作会社での勤務を経て、神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程修了。修士(経営学)。京都大学経営管理大学院特定講師などを経て現職。横浜市立大学研究・産学連携推進センター スタートアップ推進部門 副部門長を兼任。株式会社STUDIUS取締役CCOを務める。

■ 研究テーマ

専門はアントレプレナーシップとスタートアップになります。起業家と研究者が継続的に対話し、その過程を記録・分析する「対話記録法」を用いて、起業におけるパートナーシップがどのように生まれ、信頼関係や役割分担がどのように形成されていくのか、その成立プロセスを探究しています。

■ 研究指導方針

クルト・レヴィンの「良い理論ほど実践的なものはない」という考え方を大切に、理論と実践のつながりを重視した研究指導を行っています。現場で生まれる問いを出発点に、現実の課題を学術的に捉え直し、先行研究レビューを通じて研究として磨き上げていくプロセスを大切にしています。その上で、研究成果が学術的価値を備えると同時に、社会実装や実務への示唆にもつながることを目指しています。

岩佐 朋子 准教授

IWASA Tomoko

【担当科目】

(博士前期課程)
イノベーションの経済学



■ 連絡先

E-mail: iwasa@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

英国サセックス大学 修士(国際経済学)
一橋大学経済学研究科博士後期課程 博士(経済学)
文部科学省科学技術政策研究所研究員として勤務
2004(平成16)年より現職

■ 研究テーマ

企業の行動や戦略について経済学の視点から研究を行っています。特に、競争力の源泉であるイノベーションの問題や、需要の縮小に伴う産業構造の変化の問題に取り組んでいます。

■ 研究指導方針

イノベーションに関わる諸問題を理解するために、経済学、経営学、統計学などの様々なアプローチが複合的に用いられる研究分野です。国内外で発表された先行研究をしっかりと踏まえた上で、現在起こっている応用問題に取り組んでいきます。

教員紹介

大澤 正俊 教授

OSAWA Masatoshi



【担当科目】

(博士前期課程) ビジネス法務研究
(博士後期課程) ビジネス法務特殊研究

■ 連絡先

E-mail: osawa@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 320

■ 経歴・研究活動等

1998(平成10)年 明治大学大学院 法学研究科 博士後期課程 満期退学
1998(平成10)年 横浜市立大学 商学部 専任講師
2009(平成21)年より横浜市立大学大学院 国際マネジメント研究科 教授

■ 研究テーマ

不動産の権利関係についての理論研究

■ 研究指導方針

『ビジネス法務』の研究領域は広範多岐にわたるので、個々の院生の研究目的に合わせた研究指導を行う予定です。

大塚 章弘 教授

OTSUKA Akihiro



【担当科目】

(博士前期課程) 経済政策研究
(博士後期課程) 経済政策特殊研究

■ 連絡先

E-mail: otsuka@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

岡山大学大学院文化科学研究科修了。博士(経済学)。電力中央研究所を経て、2016(平成28)年4月より現職。

■ 研究テーマ

地域科学を基盤として、都市・地域の生産性や持続可能な地域経済システム、エネルギー・電力に関する経済問題の実証研究を行っています。

■ 研究指導方針

都市・地域やエネルギーの経済メカニズムに関心を持ち、自ら問いを立てる姿勢を重視します。都市・地域経済学およびエネルギー経済学の理論的基礎を踏まえ、経済・産業・エネルギー関連データの収集、仮説設定、実証分析、論文執筆までを一貫して指導します。

加藤 弘陸 准教授

KATO Hiroataka



【担当科目】

(博士前期課程) ヘルスケア・ポリシー
数量分析研究

■ 連絡先

E-mail: kato.hir.lh@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 317

■ 経歴・研究活動等

経歴: 京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科特任助教、横浜市立大学国際商学部講師を経て、2024(令和6)年より現職。研究活動(公刊論文): "Patient mortality after surgery on the surgeon's birthday: observational study," BMJ 2020など。

■ 研究テーマ

医療経済学を専門としています。主に日米の大規模医療データ(レセプトデータ等)を用いて、医療供給者や患者の行動を検証したり、医療政策の評価を行ったりしています。

■ 研究指導方針

医療経済学の理論や分析手法をしっかりと学んだうえで、実証分析を行っていただきます。学生が自らの問題意識に基づいた良いリサーチ・クエスチョンを立て、優れた研究を行えることを目指して指導します。

鞠 重鎬 教授

KOOK Joongho



【担当科目】

(博士前期課程) 財政学研究
(博士後期課程) 財政学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: kook@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 303

■ 経歴・研究活動等

一橋大学経済学研究科博士後期課程修了。博士号(経済学)
一橋大学経済学部助手として勤務。その後韓国租税財政研究院(国策研究機関)の研究委員を歴任。1999(平成11)年より本学に赴任

■ 研究テーマ

主な研究テーマは、「人的資本投資と租税政策」、「日韓の財政・租税体系の比較研究」、及び「地方税財政や政府間財政関係」に関する分野です。これらの研究テーマは、博士論文である『人的資本投資と租税政策の経済効果』(一橋大学)と、『韓国と日本の租税体系の特性に関する比較研究』(韓国の高麗大学)とに深く関わっていますが、最近では地方税財政の研究にも関心が深いです。

■ 研究指導方針

研究指導の際、念頭に入れるべきことは、学生の現在のレベルより「少し上(slightly more)」を目指すことだと思います。レベルが高すぎると興味がなくなりやすく、低すぎるとつまらないと感じやすくなるからです。この「少し上」を目指すことが研究指導方針です。

佐藤 亨 准教授

SATO Toru



【担当科目】

(博士前期課程) 公共マネジメント
ヘルス情報マネジメント

■ 連絡先

E-mail: sato.toru.he@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 315

■ 経歴・研究活動等

横浜国立大学経営学部卒。横浜国立大学大学院国際社会科学部研究科博士課程前期修了。公益財団法人日本生産性本部を経て2025年(令和7年)より現職。

■ 研究テーマ

公共マネジメントを専門としています。主に政府(国・地方自治体・大学)の経営や会計に関する研究を展開しています。政府はどのように機能するのか、政府に限界があるとすればどうすれば社会課題を解決できるのかをマネジメントの視点から研究しています。

■ 研究指導方針

公共マネジメントの最終的な目標は社会課題の解決にあります。当該分野に関する研究とシンクタンクでのコンサルティング・マネジメント経験を活かし、研究で得られた知見を社会実装していくことを目標に指導していきます。

虞 朝聞 准教授

YU Chaowen



【担当科目】

(博士前期課程) 公共政策研究
(博士後期課程) 理論経済学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: gu.cho.ru@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 304

■ 経歴・研究活動等

慶應義塾大学経済学部卒。慶應義塾大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得退学(経済学修士)。立正大学経済学部特任講師、北星学園大学経済学部専任講師を経て、2026(令和8)年より現職。

■ 研究テーマ

社会を構成する各個人の意見をどのように社会の意見として集約するかについて研究する社会的選択理論の中でも、特に世代間衡平性の問題に関心を持っています。

■ 研究指導方針

経済の理論研究は、既存文献に対する理解の深さが極めて重要であると考えています。したがって学生には、多くの文献に手を出すよりも、関心のあるテーマについての数少ない重要な文献を、まるで自身が書いた論文であるかのような水準で理解することを望みます。

柴田 典子 教授

SHIBATA Noriko



【担当科目】

(博士前期課程) マーケティング
(博士後期課程) 経営学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: shiban@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 313

■ 経歴・研究活動等

学習院大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学修士号(経営学)。2002(平成14)年に本学着任。

■ 研究テーマ

マーケティング論、消費者行動分析を専門とし、その中でもブランド論を中心とした研究、ケーススタディを行っています。象徴的消費にかかわる研究、特に「消費者行動における自分らしさ、自己表現」を自らの研究テーマとして取り組んでいます。

■ 研究指導方針

実際のマーケティング事象に強い関心があることが重要です。そして、自分の問題意識を掘り下げて研究テーマを設定し、理論と実証の両面からどのようにアプローチしていくのか、じっくりと考えていく姿勢が求められます。



教員紹介

白石 小百合 教授

SHIRAIISHI Sayuri



【担当科目】
(博士前期課程) 数量分析研究
(博士後期課程) 計量経済学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: shira@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

上智大学外国語学部卒。慶應義塾大学大学院後期博士課程単位取得退学。博士(経済学)。社団法人日本経済研究センター、帝塚山大学を経て、2007(平成19)年より現職。

■ 研究テーマ

【行動経済学による幸福度研究、政策評価】

「あなたは全体的にみて幸せですか?」という問いを通して、人々の幸福感に対する個人の属性や社会的ネットワーク、政策の効果等を研究しています。

■ 研究指導方針

実証分析を行うに当たり、現実の経済社会への関心を大切にします。計量経済学は経済学と統計学の双方を用いて分析することから、基礎的な積み重ねを重視します。

随 清遠 教授

SUI Qing-yuan



【担当科目】
(博士前期課程) 金融論研究
(博士後期課程) 金融論特殊研究

■ 連絡先

E-mail: usui@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 440

■ 経歴・研究活動等

経歴: 東京大学経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。東京都立大学助手を経て、1993(平成5)年4月より現職。
研究活動: 最近の研究。
"Quantitative easing and sectoral credit allocation in Japan", Japanese Economic Review, 2026.

■ 研究テーマ

金融システムに関する制度形成。企業の設備投資行動。

■ 研究指導方針

各自の研究テーマに即して関連研究の把握、理論モデルや分析ツールの理解、独自の分析と検証などを繰り返しながら、学術論文を作成してもらいます。

高木 俊雄 教授

TAKAGI Toshio



【担当科目】
(博士前期課程) グローバル・ストラテジー
(博士後期課程) 経営学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: takagi.tos.hy@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 332

■ 経歴・研究活動等

明治大学大学院経営学研究科博士後期課程満期退学。博士(経営学)。昭和女子大学グローバルビジネス学部を経て、2024(令和6)年より現職。経営戦略に関する研究のほか、PBL(Project Based Learning)の実施および効果に関する研究や産官学連携活動に関する研究を行っている。

■ 研究テーマ

以下のテーマを中心に研究を進めているが、これ以外でも指導が可能な領域もあるので、必要に応じて相談してほしい。
・制度的戦略に関する研究
・制度および掲げられた表象と組織行為に関する研究
・PBL/産官学連携と人材育成に関する研究

■ 研究指導方針

研究教育職をめざす学生、博士前期課程修了後に企業等に就職する学生であっても研究方法論および調査方法の習得は重要であると考えます。そのため、私の研究室ではこれらを十分に学んだうえで、各自関心を持つ対象に対して調査研究を行ってほしいと思います。

高橋 隆幸 教授

TAKAHASHI Takayuki



【担当科目】
(博士前期課程) 国際租税法研究
(博士後期課程) 会計学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: takahashi@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 334

■ 経歴・研究活動等

中央大学大学院商学研究科博士後期課程退学
修士号(商学)
税理士業を経て
2000(平成12)年より本学に赴任

■ 研究テーマ

租税法のうち、主に法人税・所得税といった所得課税を研究しています。租税が、納税者の行動・意思決定に与える影響の検証を試みています。

■ 研究指導方針

修士課程1年次には、主に海外の様々な研究論文を読んで頂き、問題意識を養い、研究テーマを設定して頂きます。テーマ決定後は、論文執筆まで個別に指導します。

張 櫻馨 教授

CHANG Ying-Hsin



【担当科目】
(博士前期課程) 国際財務会計
(博士後期課程) 会計学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: chang@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 338

■ 経歴・研究活動等

横浜市立大学商学部経営学科卒(学士(会計学))
横浜市立大学経営学研究科修士課程修了(修士(会計学))
横浜市立大学経営学研究科博士課程修了(博士(会計学))
2005(平成17)年 横浜市立大学准教授
2014(平成26)年 同教授

■ 研究テーマ

開示制度(日本会計基準および国際財務報告基準)や自主開示を対象に、経営者の情報開示戦略と市場の反応との相互作用の解明を中心とした研究を行っています。

■ 研究指導方針

財務会計を基盤とし、理論と実証の双方を有機的に結び付けた体系的な教育・研究指導を行います。また、研究活動を進めるにあたり、文章作成力、情報検索力、データ分析力およびプレゼンテーション力を総合的に高め、理論と実務を架橋できる人材の育成を目指します。

田場 弓子 准教授

TABA Yumiko



【担当科目】
(博士前期課程) 国際貿易論研究

■ 連絡先

E-mail: taba.yum.qg@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 306

■ 経歴・研究活動等

早稲田大学大学院経済学研究科修了。博士(経済学)。早稲田大学教育学部助手、二松学舎大学国際政治経済学部を経て2025年(令和7年)より現職。

■ 研究テーマ

国際貿易の理論研究に取り組んでいます。主に、各国政府による戦略的貿易政策が、国際市場における企業間競争に与える効果や、社会的に望ましい政策のあり方について考えています。また、国際貿易が各国企業の財の品質向上やイノベーション投資に与える影響などについても研究対象としています。

■ 研究指導方針

学生が主体的に発見した社会的課題に対して、経済学の分析方法を用いて研究を行う能力の育成を目標としています。

中園 善行 教授

NAKAZONO Yoshiyuki



【担当科目】
(博士前期課程) ※2026年度は担当科目なし
(博士後期課程) 経済学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: nakazono@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

経歴: 東京大学経済学部経済学科卒業。東京海上日動火災保険、早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程、日本学術振興会特別研究員、早稲田大学大学院ファイナンス研究科助教を経て現職。博士(経済学)。

■ 研究テーマ

専門はマクロ経済学です。経済主体が形成する期待と実体経済の相互依存関係に関心を持っています。

■ 研究指導方針

理論と実証のバランスの取れた研究指導を目指します。

教員紹介

長畑 周史 准教授

NAGAHATA Shushi



【担当科目】
(博士前期課程)
コーポレート・ガバナンス研究

■ 連絡先

E-mail: nagahata@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 336

■ 経歴・研究活動等

慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。青森中央学院大学経営法学部専任講師を経て2012(平成24)年より現職。2022(令和4)年ブリティッシュコロンビア大学ロースクール付属アジア法研究所客員教授。

■ 研究テーマ

商法(主に会社法)が私の専門分野です。現在は、内部統制を中心にコーポレートガバナンスについて研究しています。

■ 研究指導方針

経営学や経済学に共通する諸問題を法学的視点から検討します。受講者のこれまでの学習内容に法学的視点を取り入れ、さらに発展させられるように指導を行います。入学後に指導教員として希望する場合は「ビジネス法務」を受験して下さい。

中村 祐太 准教授

NAKAMURA Yuta



【担当科目】
(博士前期課程) ※2026年度は担当科目なし
(博士後期課程) ゲーム理論特殊研究

■ 連絡先

E-mail: y_naka@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 316

■ 経歴・研究活動等

慶應義塾大学経済学研究科後期博士課程修了。博士(経済学)。慶應義塾大学経済学部助教を経て、2020(令和2)年より現職。

■ 研究テーマ

メカニズムデザイン/マーケットデザインというゲーム理論の応用分野を専門とし、オークションルールや選挙制度などの制度設計に取り組んでいます。最近では、サイバーセキュリティ分野における脆弱性検証のインセンティブ設計にも関心を広げ、その理論的分析を進めています。

■ 研究指導方針

経済理論の研究には数学的知識はもちろんのこと、定理の証明をクリアに書く能力が必須となります。したがって、修士課程1年次には数学と経済理論の基礎を学んでもらい、2年次以降は海外の先端論文を読み進め興味のあるテーマを各自で設定してもらいます。

根本 裕太郎 准教授

NEMOTO Yutaro



【担当科目】
(博士前期課程) サービス・マネジメント
(博士後期課程) 経営学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: nemoto.yut.wa@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 324

■ 経歴・研究活動等

首都大学東京大学院システムデザイン研究科博士後期課程修了。博士(工学)。学位取得後、日本電気株式会社、東京都立産業技術研究センターを経て、2022(令和4)年9月より現職。

■ 研究テーマ

専門はサービス学、デザイン学です。社会科学的アプローチと工学的アプローチの両輪で、次のようなテーマを研究しています。ウェルビーイング志向のサービスやデザイン方法論に関する研究/サービス組織におけるテクノロジー活用に関する研究/製造業のサービスビジネスに関する研究。

■ 研究指導方針

サービス学は雑食な学問であり、様々な分野の知識を繋いでいくことで見えてくるものがあります。領域横断的な文献調査を通じて、各々が独自の知識ネットワークを構成し、密度の高い議論を展開できるよう指導します。研究指導もまたサービスであるため、その本質である価値共創を意識し、一緒に成果を創り上げていきたいと考えています。

橋本 倫明 准教授

HASHIMOTO Noriaki



【担当科目】
(博士前期課程) グローバル・マネジメント

■ 連絡先

E-mail: hashimoto.nor.nt@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 326

■ 経歴・研究活動等

慶應義塾大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(商学)。あずさ監査法人勤務、慶應義塾大学商学部助教、東京都市大学都市生活学部講師・准教授を経て、2024(令和6)年より現職。経営哲学学会常任理事。

■ 研究テーマ

以下のテーマに関して、組織の経済学や科学哲学のアプローチを用いた理論的・概念的な研究を主として行っています。
(1)企業の本質(目的、行動原理、機能)とは何か
(2)変化する事業環境の下で企業は戦略、組織、企業境界、ガバナンスをどのように変革するのか

■ 研究指導方針

経営理論の基礎学修、研究論文の輪読、ディスカッション、プレゼンテーションを通じて、自ら問題を発見し、独自の切り口から解決を提示し、他者を説得する力を養成します。研究対象は幅広く認め、各自で関心のある研究テーマを設定してもらいます。

藤崎 晴彦 准教授

FUJISAKI Haruhiko



【担当科目】
(博士前期課程) 戦略管理会計研究

■ 連絡先

E-mail: fujisaki@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 330

■ 経歴・研究活動等

早稲田大学商学部卒。早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学(商学修士)。横浜市立大学商学部講師、助教授を経て2005(平成17)年より現職

■ 研究テーマ

戦略的管理会計
現代企業経営に即した管理会計システムがどうあるべきか、主に戦略マネジメントシステムの観点から分析します。特に、1990年代以降のコストマネジメントシステムである活動基準原価計算(ABC)ならびに業績管理システムであるバランス・スコアカード(BSC)適用に伴う組織文化への影響を考察します。

■ 研究指導方針

学生自らが問題発見、問題解決できるよう、先行研究の精読を行うとともに、学部生とともに企業訪問や工場見学といったフィールドワークも取り入れた指導を行います。

原 広司 准教授

HARA Koji



【担当科目】
(博士前期課程) ソーシャル・イノベーション
ビジネス・マネジメント
(博士後期課程) 経営学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: hara.koji.vv@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 311

■ 経歴・研究活動等

大阪市立大学商学部卒。大阪市立大学大学院経営学研究科博士前期課程修了(経営学修士)後、京都大学大学院医学研究科医療経済学分野にて博士後期課程修了(社会健康医学博士)。京都大学を経て、2021(令和3)年より現職。

■ 研究テーマ

情報と意思決定の科学に基づく健康・医療の研究に取り組んでいます。多様なフィールドのなかで、マーケティング、行動科学の理論を進展させる、あるいは応用し、学術および実務への貢献を目指しています。

■ 研究指導方針

実務と理論の融合を目指した研究に取り組んでいただきます。実務の解像度を上げるとともに、理論を丁寧に理解し、応用、発展できるように伴走します。

吉永 崇史 教授

YOSHINAGA Takashi



【担当科目】
(博士前期課程) グローバル・オーガニゼーションズ
(博士後期課程) グローバル・オーガニゼーションズ
特殊研究

■ 連絡先

E-mail: tyoshina@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 319

■ 経歴・研究活動等

青山学院大学国際政治経済学部卒業。中央三井信託銀行株式会社での勤務を経て、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了。博士(知識科学)。北陸先端科学技術大学院大学科学技術開発戦略センター研究員、富山大学学生支援センター特命准教授を経て、2013(平成25年)に着任。

■ 研究テーマ

多様性を志向する経営組織と、組織活性化のためのコミュニケーションについて、ナレッジ・マネジメント(知識経営)やナラティブ(物語)・アプローチの観点から、質的研究手法に基づき研究を行っています。

■ 研究指導方針

学生自らの問題意識に基づきリサーチ・クエスションの設定プロセスを重視します。その上で、先行研究レビュー、適切な研究方法(データ収集・分析方法)の選択、調査計画立案・実施、調査結果の考察、論文執筆について、対話を積み重ねながら指導を行っていきます。



在学生からのメッセージ



むらい はると 国際マネジメント専攻 博士前期課程1年

主指導教員 大塚 章弘 先生

YCU国際マネジメント研究科を選んだ理由や、実際に良かったところ

教員と学生との距離が近く、親身な研究指導が期待できるというのが一番の決め手でした。また様々な専門領域を持つ先生方が在籍しており、多様な分野に触れることができ、自分の研究分野以外にも関心が広がります。さらに、「大学院科目の早期履修制度」の活用によって在籍1年で課程を修了できるということも魅力に感じ、進学を決めました。

現在の研究テーマ、内容や状況

「家庭ごみ排出の有料化に伴うごみ減量効果の減衰」について研究しています。指定ごみ袋等の購入を通じてごみ減量を促すという政策が様々な自治体で実施されていますが、この減量効果が「慣れ」により減衰すると指摘されており、この「慣れ」について分析することを試んでいます。現在、文献整理などが完了し、詳細な分析及び具体的なモデル構築に取り組んでいます。

卒業後の目標

修了後は、本学で培った知見を十分に活かしながら社会に貢献していきたいと考えています。また、いずれは博士号を取得し、研究者としてのキャリアを重ねていくことも視野に入れています。

これから国際マネジメント研究科の受験を考えている方へメッセージ

国際マネジメント研究科の授業では、手厚い指導のもと、学生同士や学生・教員間での議論が活発に行われ、中身の濃い学びを得ることができます。また金沢八景キャンパスをはじめ、本学は落ち着いた環境の中で授業や研究に集中できるのも魅力です。ぜひ、「横浜市立大学大学院での学び」をあなたの進路として考えることをお勧めします。

2025年度 時間割

前期						
月	火	水	木	金	土	
1	金融論研究				国際金融論研究	
2	財政学研究				マイクロ経済学研究	
3	ミクロ経済学研究					研究指導 I
4						
5						
6						
7						

後期						
月	火	水	木	金	土	
1						
2	大学院特殊講義D (経済学原理)					
3	消費者行動研究		公共政策研究			研究指導 II
4		数量分析研究				
5						
6					ヘルス情報マネジメント	
7					ヘルス情報マネジメント	



むろ りおな 国際マネジメント専攻 博士前期課程2年

主指導教員 高橋 隆幸 先生

YCU国際マネジメント研究科を選んだ理由や、実際に良かったところ

学部から慣れ親しんだ環境で専門性を深めたいと思い、学内推薦で進学しました。少人数の講義で、先生方や学生同士の距離が近く、密度の濃い議論ができています。複雑な実務に対応するための論理的な思考力を養える環境に身を置くことで、資格試験の勉強だけでは得られない体系的な学びを日々実感しています。

現在の研究テーマ、内容や状況

税制が1円ストック・オプションの採否に与える影響についての研究をしています。税制が少し変わるだけで、企業の行動・意思決定は変わります。報酬ごとに異なる税制の取扱いが企業行動にどう影響するかを統計やデータベースを用いて実証分析を行います。現在は国内外の先行研究を収集し、統計分析のためのデータ構築に取り組んでいます。

卒業後の目標

卒業後は税理士として、大学院で培った専門性の高い会計や税務の知識を正確にわかりやすく伝えられる人材となり、社会に貢献したいと考えています。

これから国際マネジメント研究科の受験を考えている方へメッセージ

国際マネジメント研究科では、先生方が学生一人一人と丁寧に向き合ってください、学生同士も落ち着いた交流ができ、安心して勉学に励める環境です。専門性の高さに不安があっても、積極的なコミュニケーションを通じて周囲が温かく迎えてくださるので、自分のペースで着実に成長できている実感があります。興味のある方は、ぜひ一歩踏み出してみてください。チャレンジする価値のある場所です！

2025年度 時間割

前期						
月	火	水	木	金	土	
1	数量分析研究	会計方法論研究	ビジネス法務研究			
2						
3		税務戦略研究				
4		上級会計学研究	研究指導			
5					多変量統計解析	
6		国際財務会計				
7						

後期						
月	火	水	木	金	土	
1						
2						
3						
4		財務会計課題研究	自然言語処理	研究指導		
5						
6						
7						



り はん 国際マネジメント専攻 博士前期課程2年

主指導教員 高木 俊雄 先生

YCU国際マネジメント研究科を選んだ理由や、実際に良かったところ

本研究科は分野横断的な学びが可能であり、経営学だけでなく、会計学や経済学などの他分野も履修できる点に魅力を感じました。経営学を縦に深く探求しつつ、横断的に視野を広げられる環境は非常に有意義です。実際に入学してみて、先生方の高い専門性と温かく丁寧なご指導のおかげで、安心して楽しく学びに集中できているところが本当に良かったと感じています。

現在の研究テーマ、内容や状況

現在、テレワークを積極的に活用する従業員の印象に影響を与える要因について研究しています。新しい働き方が普及する中で、周囲がテレワーク利用者に対してどのような印象を抱くのか、そのメカニズムを明らかにすることを目指しています。現在は指導教員と主要な枠組みについての相談を終え、アンケート調査を実施する準備を進めているところです。

卒業後の目標

大学院で培った多角的な視点や専門知識を最大限に活かし、日本の企業に就職したいと考えています。自分なりの力を発揮し、企業や社会の発展に貢献することが目標です。

これから国際マネジメント研究科の受験を考えている方へメッセージ

先生方が非常に熱心で優しく、学生一人ひとりに寄り添ってくださる研究科です。また、履修できる科目の種類も豊富で、自分の興味に合わせて柔軟に学ぶことができます。少しでも関心がある方は、ぜひ受験にチャレンジしてみてください！

2025年度 時間割

前期						
月	火	水	木	金	土	
1	数量分析				ビジネス・マネジメント	
2		マーケティング	イノベーションの経済学			
3	コーポレートガバナンス				日本語実践 (口頭表現A)	
4			グローバル・マネジメント			
5		グローバル・オーガニゼーションズ		日本語実践(留学生のキャリアデザインA)		
6		研究指導 I				
7						

後期						
月	火	水	木	金	土	
1						戦略管理会計研究
2	グローバル・ストラテジー	サービス起業論				
3	消費者行動研究					
4						
5						
6		研究指導 II				
7						



のざわ ともみ 国際マネジメント専攻 博士後期課程2年

主指導教員 高木 俊雄 先生

YCU国際マネジメント研究科を選んだ理由や、実際に良かったところ

修士課程でご指導いただいた教員のもとで、さらに学びを深めたいと考え、国際マネジメント研究科に入学しました。本研究科には実務経験を有する社会人学生が多く在籍しており、互いの経験を踏まえた議論を通して理解を深めることができました。私自身も保育園長として勤務しながら通学することができ、授業で得た知見を園運営に還元することで、実践と理論を往還する有意義な学びとなりました。

現在の研究テーマ、内容や状況

現在は、保育職のキャリア形成に関する研究に取り組んでいます。とりわけ、キャリア形成を個人の経験の蓄積としてではなく、組織的支援や制度との相互作用の中で捉え、その過程を解明することを目的としています。また、国際的な研究動向の把握と研究成果の発信を通して、本研究の学術的発展と実践への還元を目指しています。

卒業後の目標

卒業後は、保育現場で培った経験を基盤とし、経営学と保育学を架橋する視点から研究に取り組み、現場の課題改善や発展につながる知見の創出に努めていきたいと考えております。

これから国際マネジメント研究科の受験を考えている方へメッセージ

本研究科は、学部から直接進学された方だけでなく、実務経験を持つ方や仕事をしながら学ぶ方も多く在籍しています。多様な背景を持つ仲間との学び合いを通して、実践に根ざした課題解決につながる知見を深めることができます。また、専門性の高い先生方が一人ひとりの関心に寄り添い、主体的な研究を丁寧に支えてくださるのも特徴です。ぜひ、チャレンジしてみてください。そして一緒に学びましょう。

2025年度 時間割

前期						
月	火	水	木	金	土	
1						
2						
3		経営学特殊研究 (A)				
4						
5						
6	経済学特殊研究					
7	特殊研究指導 I					

後期						
月	火	水	木	金	土	
1						
2						
3						
4						
5						
6	特殊研究指導 II			経済学特殊研究 (C)		
7		グローバル・オーガニゼーションズ特殊研究				

YCU

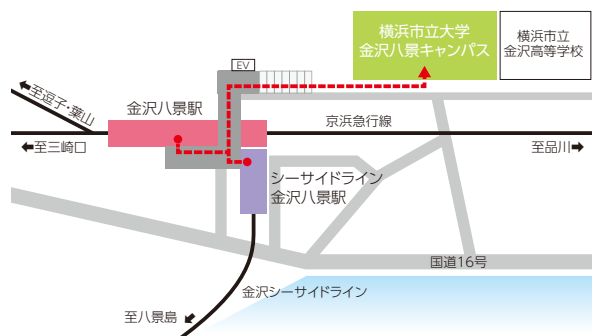
横浜市立大学



横浜市立大学 大学院
国際マネジメント研究科

金沢八景キャンパス


京浜急行「金沢八景駅」下車徒歩5分
シーサイドライン「金沢八景駅」下車徒歩5分



横浜市立大学

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

TEL:045-787-2055 FAX:045-787-2057 https://www.yokohama-cu.ac.jp/int_manage/

 @yokoichi  YCU_koho  yokohama_city_university  YokohamaCityUniv



[編集・発行]
横浜市立大学アドミッションズセンター